

陳 情 書

平成30年12月 6 日

横浜市長 林文子様

陳情者 横浜市港南区港南台9-30-31

認定NPO法人ホタルのふるさと瀬上沢基金
角田東一 印

上郷深田遺跡の現状保存について

陳情項目 :

横浜市栄区上郷町に所在する「上郷深田遺跡」の現状保存を求める。

陳情の趣旨 :

「上郷深田遺跡」は、7世紀中葉から9世紀前半の約200年間製鉄が行われていた遺跡です。これは1986年に舞岡上郷線道路工事前に道路下部の発掘調査で明らかになりました。道路上部にも同遺跡が確認されていますが未発掘のまま残されました。この度、上郷開発計画で製鉄遺跡の山を破壊する前の試掘調査を2019年に実施すると聞き及んでいます。

「上郷深田遺跡」は、製鉄遺跡としては関東地方で最大といわれており、また神奈川県で唯一であり、7世紀中葉からの製鉄操業遺跡は東日本で最も早い貴重なものです。上郷深田製鉄の特徴は、江ノ島あたりの平野から吹き込む風を両側の山で徐々に狭め上郷瀬上沢の深田谷戸で一気に吹き上がる、強い南南西の風を利用したとみられる溶鉱炉構造です。

今でもこの地に立てば、江ノ島方面からの強い風を感じることができます。対岸には製鉄技術をもたらしたと言われる渡来人の墓や製鉄所を管理していた役所とみられる奈良時代の館跡も発見されています。

この付近には、縄文弥生住居跡、縄文散布地、江戸期の横堰、古道江戸道、昭和初期の道路改修碑、第二次大戦末期の銃眼遺構などが集中しています。舞岡上郷線道路上部の製鉄遺跡を現状保存することにより、それらの歴史的教育的価値は一層高くなります。これらの郷土の歴史を保存し、後世代に引き継ぐことは地域の活力を

生み、経済も持続させていくことになります。

「横浜市栄区上郷町地区地区計画」では、深田谷戸、猿田谷戸を埋める宅地造成により「上郷深田遺跡」の道路上部遺跡は完全に削り取られ、記録保存のみで何の跡形もなくなる計画となっています。

奇跡的に残された瀬上沢の自然と歴史遺産を潰すことなく次の世代に手渡すことができるよう、「上郷深田遺跡」の現状保存を求めます。

ホタルのふるさと瀬上沢基金は
ホタルが自生する豊かな生態系の里山の原風景が残り
貴重な文化的遺跡も見られる瀬上沢を
次世代に残す活動をしています

H30.10.15 現在 会員 175 名 寄付 15,083 名 1,063 万円